

新方針「動く自衛隊」



迷彩色を施した陸自第7師団の90式戦車と隊員。雨によるぬかるみの中、訓練が行われた＝根室管内別海町

戦車100両 420キロ移送

陸自第7師団千歳→矢白別

【別海】陸上自衛隊で唯一の戦車主体の基幹部隊、第7師団（東千歳）が、「協同転地演習」を矢白別演習場（根室管内別海町など）で行っている。第7師団の戦車部隊が本拠地の道央を離れるのは初めて。政府が昨年暮れに新たな防衛戦略として「動的防衛力」を打ち出したことが背景にある。「動き、戦う戦車部隊」を目指す演習を見た。（千歳支局 渡辺淳一郎）

憲法学者「デモンストレーションだ」

札幌ドーム約3千個、だ荒野を、迷彩色を施した90式戦車がごう音を響かせる。縦横無尽に走る。雨でぬかるんだ演習場。二つの戦闘団が偵察活動

動的防衛力 政 衛力を転換し、中国や北朝鮮の動向を視野に、テロ島を中心とする島しょ部の防衛力強化を狙っている。「戦う自衛隊」への変貌で、必要最低限の装備や人員を重視する。今年防衛白書では防衛政策の基本に位置する従来の「基盤的防

動や模擬射撃を繰り返す。陣地を奪い合う戦闘訓練。8月31日から始まり、9日まで続けられる。第7師団が矢白別に持ち込んだ戦車は90式100両。さらに戦闘装甲車、高射砲車などが加わり、参加人員は約2600人になる。戦車部隊の戦闘訓練はこれまで、千歳市や恵庭市などにまたがる北海道大演習場で行われていた。本拠地から約420キロ離れた矢白別での演習の実施は、政府が昨年12月の新防衛大綱で動的防衛力の概念を導入したためだ。中国の軍事力台頭

から順次行われてきた矢白別への移動も訓練の大きな目的。10時間かけた長距離移動は、戦車部隊にとって初めての経験だった。90式戦車は1両50トと重く、道路の舗装を傷つける恐れがあるため、砲塔と車体を分離してトラックで輸送。民間からの借り入れを含めてもトラックが足りず、戦車を運び終えるのに約4週間かかった。第72戦車連隊第4中隊の浜谷貴昭中隊長は「長距離移動に適した装備の積み方など、細かなノウハウを確認できた」と、疑問を

訓練の意義を強調。4週間という期間についても、第7師団は「許容範囲内。分単位の対処が必要」と説明する。第7師団は11月には、大分県の日出生台演習場での転地演習を予定している。移動は直線距離で

今回の3倍の約1400キロ。千歳からフェリー1ミナルがある苫小牧まで戦車の公道走行も検討しており、実施されれば、市民団体などから反発が出そうだ。自衛隊の動向に詳しい早稲田大学法学部の水島朝穂教授（憲法学）は「大規模な戦車部隊を持つロシアの脅威が薄れるなど、現在の世界情勢では日本の国土で戦車戦が行われる可能性は低い」と指摘。その上で「転地演習は歴史的役割を終えた第7師団を維持するため、デモンストレーションではないか」と、疑問を